

「袖ヶ浦市図書館を使った調べる学習コンクール」に出品するための

## 調べ学習のまとめ方

### 1. おすすめの作品形式

#### <論文・レポート>

調べたことやわかったことを何枚かの紙に書いて、表紙などをつけて本のように綴じる形式です。

作品を読んでくれる人に「自分の考え」をわかりやすく伝えるために、たくさんの文章や写真、図、グラフ、表、イラストなどを使ってまとめます。

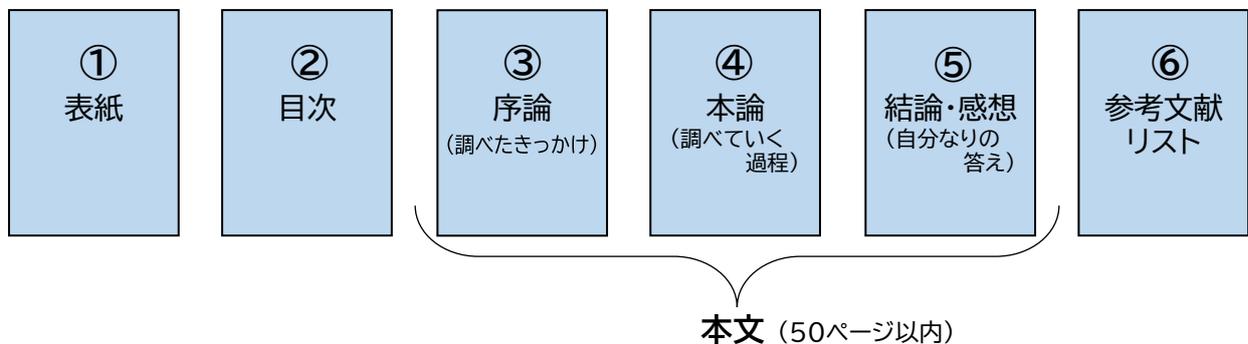
#### <ミニ調べ学習>

A5サイズかそれより小さいサイズの紙1枚に調べたことを1つ書き、それを何枚か作って1枚の画用紙などに貼った、ポスターのような形式です。

小学校低学年児童などの、作品づくり初心者におすすめです。(→5を参照)

### 2. 論文形式での作品の作り方

- 基本的な構成要素は、以下の6つです。



- 本文は、物語がすすんでいくように楽しくまとめましょう。(→3を参照)
- 論文形式でまとめる場合、市販のA4サイズの透明ポケットファイルを使うと便利です。(この場合、恐縮ですが各ご家庭で市販品をご購入いただくこととなります)
  - ・ 内容はA4サイズの紙の片面のみに書く。(50ページ以内)
  - ・ ページ番号を本文にのみ前から順につける。
  - ・ 表紙や目次は、本文ができあがってから作るとよい。
  - ・ 表紙には **タイトル**・**(袖ヶ浦市立)学校名**・**学年**・**氏名** を必ず書く。
  - ・ 一番前の透明ポケットから ②→③→④→⑤→⑥ と順に入れていく。その際、1つのポケットに前のページと次のページの2枚が背中合わせになるように入れていくとよい。  
なお、章扉を挿入するなど工夫の一環であれば、この限りではない。
  - ・ ファイルや本文などに何かを貼る場合は、簡単にはがれないようしっかりと貼り付ける。
  - ・ その他、基本的なルールは募集要項に書いてあるので、隅々までよく読んで確認する。

- 市販の透明ポケットファイルを使わずに、紙に穴を開けてヒモで綴じたり、ホチキスで留めたりしてまとめても構いません。その場合も上記の注意事項を参考にして作ってください。

### 3. 論文形式で本文をまとめるコツ

#### ● 結論 — 見つけるのは「自分なりの答え」

- ・ 調べをすすめる時、きっかけ → 調べる → 結論 とすすんでいきますが、本文をまとめる時には、まずは結論をしっかりと意識することがとても大切です。  
調べ学習には決まった 答え(結論) がありません。調べをすすめていく中で自分の中に何かしら湧き上がってきた思いや気づき、それが結論であり「自分なりの答え」です。ですから、きっかけやテーマはだれかと似ていたとしても、過程や結論は人それぞれでいいのです。読者はその作者が調べ考えた道のりの果てに何を見つけたのか、どんな気づきを得たのか、それを知りたいのです。  
集めた情報をじっくりと振り返り、自分は何を感じたか、どんなことに気づいたか、これからどうしたいか、どうなるといいと思うかなどをじっくりと掘り下げ、自分で思いつく限りの言葉を尽くしてそれを表現してみましょう。それが結論です。

#### ● 本論 — 自分が調べていった道のりをそのまま表そう

- ・ 本論は、結論を踏まえて、なぜその考えに至ったのかが読者に伝わるように情報を取捨選択しながらまとめます。
- ・ 調べたこと＝人の意見、わかったこと＝自分の考え です。この2つをきちんと区別し、引用のルールを守って書きましょう。(→4を参照)
- ・ 自分の調べていった道のり(過程)を、読者に「そうなんだ!」「へえ~」「つぎはどうなるの?」とワクワクしながら読んでもらえるような作品づくりを心がけると、よい作品になるでしょう。

#### ● 序論 — 物語のはじまり

- ・ 調べ学習は「探究学習」とも呼ばれています。その特徴のひとつは、自分でテーマを自由に設定できることです。探究学習には決まった答えがありません。調べものを続けていくには、興味を持続させるモチベーションが必要です。そのためにも、調べる本人が本当に興味のあることをテーマに設定しましょう。
- ・ 今まで取り組んだ人の中には、以下のようなテーマで調べた人がいます。  
「道路標識を見るのが好き」「バナナが好き」…普段から興味を持っていることや好きなもの  
「お味噌汁を飲むと幸せな気持ちになるのはなぜだろう」…ふとした疑問  
「お母さんをじゃんけんで勝たせてあげたい」…解決したい課題  
このような「きっかけ」から調べ始めて、調べたいことが次から次に見つければ「よいテーマ」でしょう。でも、途中で調べたいことがなくなってしまうたり、資料が見つからなくなってしまうたりしたら、途中でテーマを変更するのもアリです。

#### 4. 「引用のルール」を守って書こう

- 「引用のルール」を守ることは、著作権を守ることであり、マナーを守ることです。
- 図書館振興財団のサイト内（「応募要項」 <https://concourstoshokan.or.jp/youkou/>）に、参考になるリンクがありますので、ぜひご熟読ください。

★ 「人の意見と自分の考え 参考文献はなぜ書かないといけないの？」

（『あうる』2010年 06+07 No.95）

[https://www.toshokan.or.jp/wp-content/uploads/2016/07/no95\\_p18p25\\_100622.pdf](https://www.toshokan.or.jp/wp-content/uploads/2016/07/no95_p18p25_100622.pdf)

★ 「調べる学習作品づくりに役立つ「引用のルール」調べた情報を正しく引用するには？」

（図書館振興財団 機関誌『図書館の学校』2022年 夏号）

<https://concourstoshokan.or.jp/wp-content/uploads/2022/07/%E5%BC%95%E7%94%A8%E3%81%AE%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%ABPDF.pdf>

#### 5. ミニ調べ学習(ポスター形式)での作品の作り方（一例です）

- ① あまり大きくない紙(A5以下)を用意してカードを作ります。

↓ 調べた情報についての情報を書く「しらべたカード」

しらべたカード			
しりたいこと			
しりたいゆゑ			
しらべた じょうほう			
じょうほうが かいてあったもの	タイトル	しゅっぱんしゃ	しゅっぱんねん (アクセスした日)
	かいたひと		

- 子どもに、知りたいことと、知りたい理由を書かせる
- 本などで調べさせる
- 書いてあったことをそのまま抜き出して書かせる
- 奥付を見て出典を書かせる

↓ 自分が考えたことを書く「おもったカード」

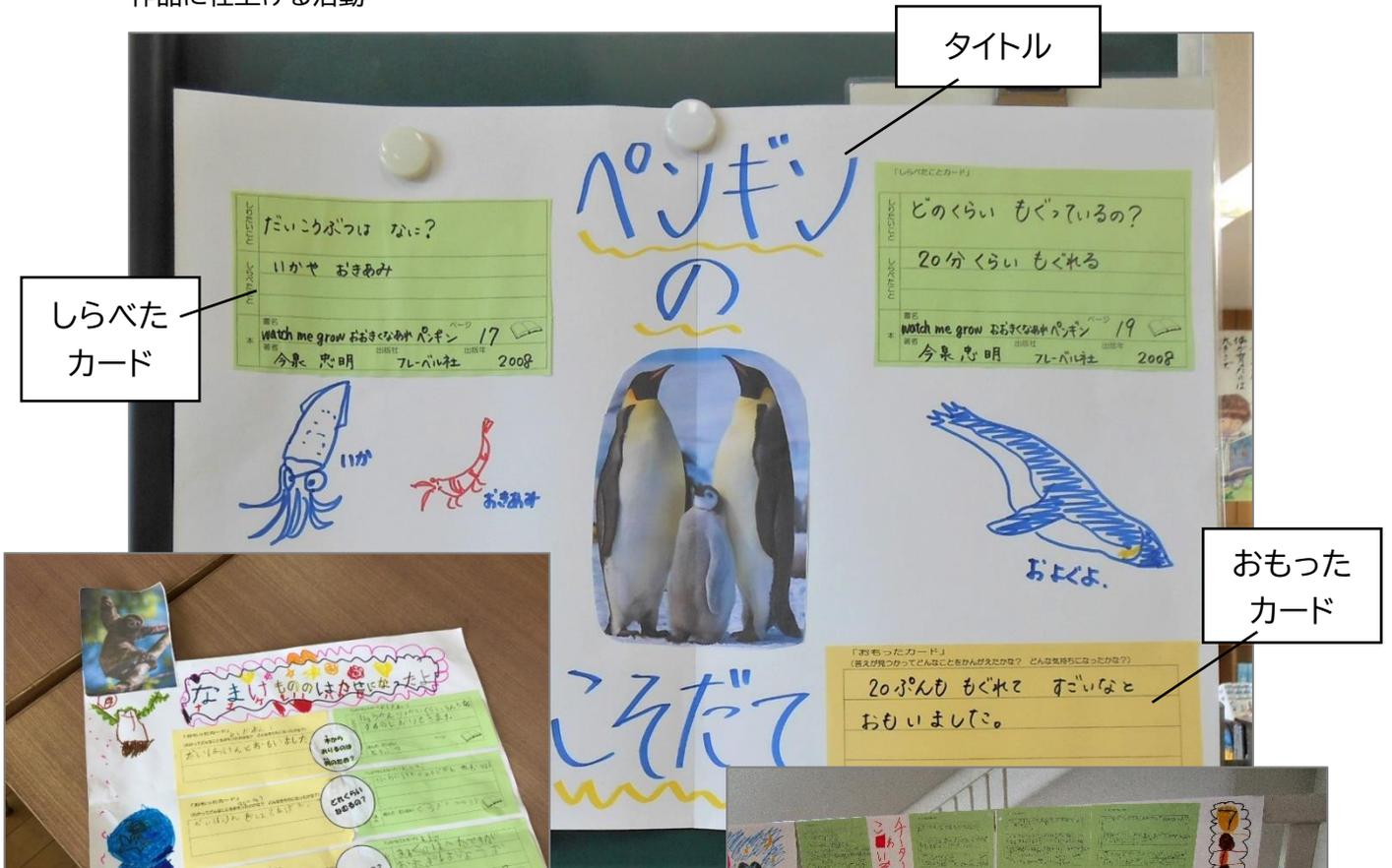
おもったカード
しりたいことがわかって、おもったことやきがついたことをかこう

- 調べた情報を知ったことで、子どもが思ったこと、感じたこと、考えたことなどを書かせる

- ② 子どもにタイトルを考えさせ、大きめの画用紙や模造紙にカードを貼ったりタイトルを書かせたりする。

◆参考：平岡小 授業内での調べ学習の取り組み（2019年7月）

しらべたカードとおもったカードを1枚の画用紙に自由に貼って、タイトルと好きな絵を描いて作品に仕上げる活動



カードは学年の発達段階に応じて少しずつ書かせる内容をかえる



自分の作品をひとりひとりみんなの前で発表する活動

